

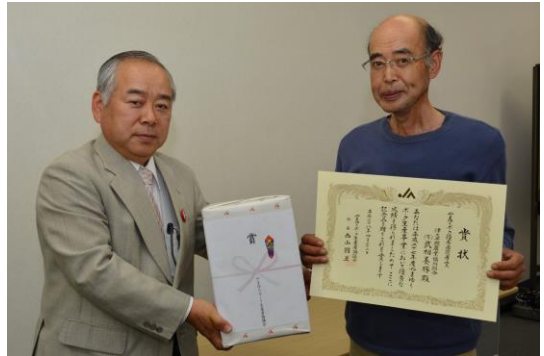
## 高い「やまゆりポーク」率、(有)武相養豚を表彰 ～やまゆりポーク生産者協 総会～

4月22日、やまゆりポーク生産者協議会は、「第22回通常総会」を開催し、平成27年度事業報告と平成28年度事業計画を承認した。また、27年度の出荷頭数に対する「やまゆりポーク」頭数率（やまゆり率）が77.5%と、会員の中で最も高かった（有）武相養豚を表彰した。

2015年は全国広範囲で豚流行性下痢（PED）の発生が確認されたため、協議会としてこれまで以上に防疫対策を徹底した一年だった。今年度も引き続き農場の衛生管理対策を徹底していく。また、「やまゆりポーク」の出荷頭数維持と市場への安定供給に向け、肉質向上や飼養管理、衛生管理、食味比較などの各種検討会や勉強会を実施していく。

中でも「やまゆり率」の向上は、市場・取引先からの安定供給の要望に応えるためにも重要な課題といえる。現在、会員農場ごとに「飼養管理目標」を設け、毎月の勉強会で進捗状況を報告し、「やまゆり率」や「事故率」、「1母豚あたり出荷頭数」に影響を与える要因について検討する事で、生産性の向上に役立てている。今年度も引き続き、県家畜保健衛生所など関係機関の協力を得ながら、協議会として「やまゆりポーク」生産量を維持し、ブランド力の強化につとめていく。

総会と合わせて開催した研修では「農場HACCPシステムの構築について」と題し、(一社)神奈川県畜産会の橋本聡氏が、農場HACCP認証協議会の審査員としての経験を交えながら講義した。協議会では、安全・安心な豚肉を生産する事を客観的に評価できる「農場HACCP認証」の仕組みや考え方を学び、現在全農場で導入している「5S活動」（整理、整頓、清掃、清潔、しつめの5項目の観点から職場環境を良好に保つ）の進捗管理とあわせ、農場運営の危機管理に役立てていく。



(有)武相養豚の安西雄次さん（写真右）が、西山協議会会長から表彰状を受け取った